

研究の概要【平成30年度（研究1年目）】

（1）研究のスタート

平成30年度から道徳が教科化されることを受け、教員間の『教科化される道徳の授業づくりについて研修がしたい。』という声から研究が始まった。

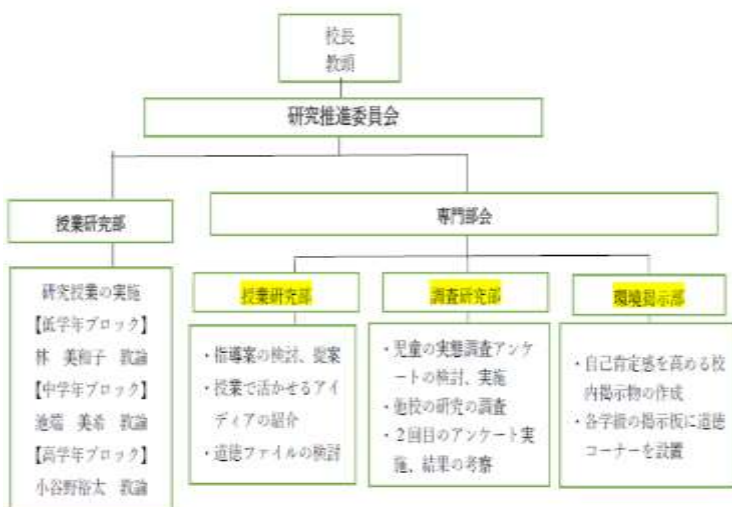
生徒指導部で行っていた生活アンケートから見られる「本校の児童の自己肯定感の低さ」を課題とし、研究のテーマを次のように設定した。

平成30年度校内研修テーマ
自己肯定感を高める道徳教育
～授業づくりを通して～

研究一年目は、新しい学習指導要領に示された3つの授業の工夫を積極的に取り入れ、各ブロックにて実践を行った。

- 低学年→体験的な学習
- 中学年→登場人物への自我関与が中心の学習
- 高学年→問題解決的な学習

（2）研究組織



（3）授業実践

第1回研究授業

3年1組『今日のヒーロー』

授業者：池端 美希 教諭

指導者：西部教育事務所 後藤輝明先生

第2回研究授業

1年2組『ええところ』

授業者：林 美和子 教諭

指導者：狭山台小学校 結城淳子 先生

第3回研究授業

5年2組『感動したこと、それがぼくの作品
～パブロ・ピカソ～』

授業者：小谷野 裕太 教諭

指導者：柏原中学校校長 井堀広幸 先生

各学年の取組のまとめ

（4）反省と課題

○3つの授業スタイルを学んだので、次の研修に生かしていきたい。

▼テーマが狭いと、教材文を選びにくい。

→「自己肯定感を高める」ということに囚われてしまうと、価値項目が個性の伸長のみになってしまう。

▼議論する工夫を研究したい。

→議論するためには、書かせるタイミングや回数、議論以外の時間のマネジメントを考えていきたい。

▼特別支援が必要な児童への配慮の方法を考えていきたい。